

記念文集を読んで

相互に関連する事項の発見や触れられていない事柄の紹介

梅田富雄(化工会)

おりしも新型コロナ禍で緊急事態宣言が出され、自宅にこもっているしかなく、届いた記念文集を昨日からじっくり時間をかけて皆さんの原稿を読ませていただきました。

一般的な時代背景や専門分野の経験談以外に個別の事柄の中に共通点を見出したことも多々ありました。この次の同期会で、記念文集の内容がおそらく話題になると想像されませんが、何時もながらの健康や老後の生活談義に加えて、お互いの共通話題があれば日頃あまり関係がなく初めて会うような関係の友人同士として気楽に話し合えることが期待されるように思われます。そうであれば記念文集を発行したことが良かったこととなります。読後感を述べる代わりに関連することを思い出し関連性や触れられていない事項で興味がある事柄について、話題提供のつもりで文集のページを捲りながら思い出したことなどを述べたいと思います。

化学工学会事務局長

岡本さんは1990ころ化学工学会で事務局長をされていたと思います。筑波大大塚地区で社会人向け大学院が発足して数年勤務していたので時折学会事務所に掛けて会うことができました。事務局長だったことに触れられていなかったので紹介します。

サステナビリティ

小柴さんは枝廣さんと懇意な間柄のようでレスターブラウンの著書の翻訳をされたりしているとのこと。コンサートで会った時にも話が出なかったので知りませんでした。

私も10年余り前から国際P2M学会に論文を投稿したりして今でも関心がある分野です。Sustainability Oriented Process Systems Engineering が今後のPSEに必要と考え研究を続けています。編集会議で会っていてもこのような分野の議論はなかったので環境関連の社会貢献活動につながることをされていたことを知り、幅広い趣味に加えてこのような活動をされていることに敬服します。

なお、最近故人になった広川さんも化学装置誌に時折環境関連の記事を投稿されていました。お互いに共通の話題として話し合うこともできなくなり残念です。

日清紡

小林さんは、繊維会社に勤務されていたとのこと、女性社員が多くソフトボールチームの監督をされていたとのこと、これに関連して2年時に繊維工学を専攻しようとした最初の時期に面接がありある先生から君は人相がきついの繊維会社に行くには人相に気を付け

るようにと言われたことを思い出しました。結果としては直ちに専攻を変える決意をし、このおかげで 2 年前期はクラシック音楽鑑賞や社交ダンスなどでのんびり有意義な時を過ごしました。

多田富雄(免疫学者)

椎名さんとは長い付き合いです。研究の合間に高島先生と 3 人で大学の近くの喫茶店 ミュスカや玉突きをやったことが楽しい思い出です。ほかにも言い尽くせないほどたくさん思い出があります。特に忘れることができない重大なことは新居浜の住友化学に夏季実習に行ったことで、その後の方向が決定づけられたことです。

文集を読んでいて、著名な免疫学者多田氏と知り合いだったことは知りました。種々の影響を受けたとか、小説を含む文学に関心が高いことは承知していましたが、ここに原点があるようですね。

氷川丸

瀧澤さんは氷川丸に特別な思い出があるようですが、椎名さんのお父さんが船長だったことをご存じでしょうか。詳しいことは椎名さんに問い合わせるとよいと思います。

私の記憶が正しければ、瀧澤さんはウイコンシン大学に留学されていたように聞いたことがあります。私は隣の州のミネソタ大学に留学していたので州境に公園などにドライブしたこともあり、懐かしく思い出しました。

パソコンの利用

出山さんは早い時期に個人向けのパソコンを導入し、使い始めたようで修理を含め運用上の多くの経験を持っているので、日常安心して使っていると思います。私は平成 1 年に筑波大に行ってから専門家のサポートでトラブルや使い方を学んで、千葉工大でも同じようなことをして、他人任せでパソコンを使ってきました。今は次男のサポートで何とか無事利用し続けている状況です。出山さんはかなり前からコンピュータと関係してきたことは、昭和 35~6 年頃千代田の赤坂本社の 1 階に大型コンピュータが設置されていて、これを使いに来られたのを記憶しており、これが証しになると思います。情報収集や原稿作成には不可欠でパソコンなしでは過ごせない今日この頃、気づけばこれに引きずられているので、トラブルがあるとこれが気懸りで落ち着かなくなる状況です。

大学生活

寺尾さんが名工大におられたこと、全く知りませんでした。例えば早い時期に故人になった静岡大小出教授は同じ化工出身で、彼の依頼でオイルショックのころから 70 歳になるまで非常勤講師としてプロセス工学を毎年夏休み前に集中講義をしていました。私が大学の専任教授になったのは平成 1 年からで工学系から社会科学系へ専門を変えての移籍からで企業での実践から大学での理論主体のマネジメントを研究、教育してきました。そのため、エンジニアリングと工学の使い方の違いがすごく気になり、今も興味を持続させており

ます。このことの根源はシステムエンジニアリング(諸外国)とシステム工学(日本)の発展過程に起因しているようです。

サクラメント

卒業後2年ほど経った時、新橋のライオンで会う機会があり新たな合成繊維の開発の話聞いたこと、豊橋時代に自宅に招かれたこと、丸の内の日本碍子本社で早期に故人となった副島さんと逢う機会があったことなど時折会ったことを思い出しました。特に印象深い事項はサクラメントで炭素繊維工場を運営されていた時に夫婦で訪問し、ナパ・バレーワイン街道をドライブしてもらったこと、ガード付きの住居エリア内でテニスをしたことです。心身ともに恵まれた状況を実感していたころの素晴らしい経験でした。

プラスチック問題

中根さんはプラ協に出向され、廃プラのリサイクルに監視をもって仕事をされてきたようで、化工エンジニアとしてリサイクルなどに関心をもって何らかの貢献をしてきた人もおられると思います。プラスチックを有益な物質としてその開発、製造、応用に貢献してきた人達が、今では逆に環境保全、資源活用の面から廃棄物からいかにして環境にやさしい処理でリサイクル、資源化するかの課題に関心事を移したり、取り組んだりしているように思います。私もサステナビリティに関心をもってマネジメントの側面から研究し、学会発表をしたりしてきましたが、先に触れたように小柴さんも問題意識をもってレスターブラウンの著書の翻訳や枝廣さんとの交流を通じて社会貢献されているようです。マイクロプラスチックや生分解性プラスチックの問題は今後解決すべき課題と思います。プラスチック問題に限らず山口さんのように環境保全に関心をもって活動されている同期生はほかにもおられると思います。私も市川市地球温暖化防止対策協議会委員を2年間務めたことがあります。企業よりは民生に課題があることを知り市民への広報活動を推進する会議に今でも適時参加しています。

ヨーロッパ旅行

奈良さんのローマの休日やアッピア街道のローマの松など馴染みのある場所に旅行され種々の経験をされたようですが、同期生にもヨーロッパ旅行をされた人は結構多いのではないかと思います。私は1966年夏にバス旅行をしました。今では有名な観光地も当時は旅行者がまばらな時期でゆっくり観光ができました。残念ながらアッピア街道はいけませんでした。同名のクラシック音楽には以前から馴染み深く時折楽しんで聴いています。なお10年ほど前に長年行きたかったピサの斜塔を訪れることができました。

健康の回復

編集会議でもしばしば話題になる事柄ですが、80歳をすればこの頃の話は挨拶代わりのようなもので藤井さん、松平さん等この文集にも見受けられるように同期生も種々のトラブルを経験しているように思います。林さん、沼田さんは脳梗塞を発症したとのこと

が、ほかの病気でもこのような予期せぬ事象は多くの人が経験しているようです。私は大病にはならなかったのですが携帯電話からスマホに変え夢中になっていた結果、1週間ほどたったある日、左手の指先や手の平にしびれが起こり念のため MRI 検査を受けましたが、幸い異常は見つからずホットした経験があります。しかしながら、いまだにしびれは治らず1年近く整骨院に通いマッサージを受けていますが治りません。神経がおかしくなっていると推察されますが、原因はいまだ不明、そろそろあきらめようか、と思ったりしています。とにかく何か異常を感じたときには、重要な事態かもしれないと考えて然るべき対応をしていく必要があると思います。

昭和32年の九州旅行

応化会の九州旅行は、化工系の旅程と少し異なっているようで、我々の旅程は四国、新居浜の住友化学から九州に入りました。住友化学は前年の夏、椎名さんと一緒に2週間余りの工場実習をしたことで化工系の旅行で先輩のみなさんに大歓迎されたことを記憶しています。我々の旅行について卒業記念アルバムに詳しく載っています。

現場経験談

辻さんのプラント輸出経験、中田さんのアメリカにおける工場運営経験、山城さんのドイツにおける工場建設のプロジェクト経験など未経験の人には何かと参考になるように思います。同期生はそれぞれ経験した分野での豊富な経験があり、研究開発、設計やオペレーションについて情報を共有化しまとめることができれば、素晴らしい技術的な遺産を残せることになるのではないかと、いつも考えていますが、皆さんはどうお考えでしょうか。

好きなことに熱中

同期生の多くは長年続けている趣味に満喫されていたり、新たな趣味を手に入れて楽しい毎日を送られているひともおられると思います。私も 30 年以上テニスをエンジョイしてきましたが、近くのコートが住宅に代わり、やめることにしました。運動を続けられる条件が整っていたことが幸いでした。故人になってしまった山内さんとはいつか対戦しようか、と話していましたが、機会がなくなり残念です。横山さんは今でも続けられているようですが、テニスに加えて合唱、英会話、水彩画、クラシック音楽や歌舞伎鑑賞などで忙しい様子、うらやましい限りです。余村さん以外にゴルフを趣味にしている同期生も多いかもしれません。趣味については、小柴さんの長唄、椎名さんの小説書き、吉田さんの宇宙への思いなども付け加えなければと思います。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

これまで、記念文章を読みながら思い出すことなど、感想を交えて書いてきました。これを機会に個人的なメモを追加させていただきます。

大山義年先生と内田俊一先生

文集を読んでいて、何時か機会があったら、忘れられない大山義年先生や内田俊一先

生について個人的なメモを残そうと思っていましたのでこの場を借りることにしました。

大山先生は4年生の時の就職担当だったと記憶していますが、千代田に決めることに会社の規模が500人程度でつぶれる可能性を懸念していると相談に行った折、つぶれたら他を紹介するから気楽にいつてはどうか、と勇気づけられました。また2年後高島先生がハーバード大学に研究のため滞在していたため我々の結婚式に主賓としてお出でいただき、結婚とは・・・のお話をさせていただきましたが、中味を覚えていません。

内田先生は学長として遠く離れた存在でしたが、1980年ころに新宿京王プラザで開催された世界化学工学会議で講演され、当時85歳であったと記憶しますが、原稿を読むことなく1時間ほど講演された当時40歳代後半で我が身に照らして40年後に果たして講演ができるかどうかと思いめぐらしたことを記憶しています。当日夜の懇親会で中華料理のラウンドテーブルでどのような経緯だったか忘れましたが、先生と隣り合わせになり恐縮しながらも親しく会食できた覚えがあります。自己紹介で2年生の時の実験で内田、梅田の名前の順番でご子息と一緒にだったこと、と東工大で最適化に関する学位を授与されたことぐらいしか話題にできませんでした。

記念文集を読まれ、書き足りなかったことなど、出山さん主幹の燦燦会ホームページに投稿されることを切に望んでいます。この結果が次の同期会の盛り上がりにつながると信じています。

2020年4月10日